



これが兵庫の駅伝!



追い上げと粘りの優勝争い

兵庫は2時間18分28秒で2位に入り、優勝した2018年以来となる表彰台に立った。

事前に描いていたのは、先手必勝。そのプランに粘りが加わり、兵庫は好位置でレースを進めた。「兵庫チームで走ることが目標でした。田中さんにたすきをつなげることを楽しみにしていました」と言う1区清水里名が、トップと30秒差の16位で発進。世界の舞台を知る2区田中希実が貫禄の区間賞で14人を抜き、2位に浮上した。3区森貞帆加は安定した走りを見せ、4区藤村晶菜も踏ん張った。

高校生3人も実力を発揮した。5区池野絵莉が区間2位の快走で2位に浮上。6区金子聖奈は2番手を守り、7区種知里も

区間3位の好走。「自分の走りができ、12月の全国高校駅伝で走れなかった悔しさをここで晴らすことができました」と、思いをぶつけて走った都大路を振り返った。

先頭の大阪と18秒差の3位で走り始めた8区福井詩は、序盤で2位の長野を抜き、さらに「ラスト500mで切り替えました」と大阪を逆転。5秒リードして、9区の永長里緒につないだ。

最長区間を初めて任された永長は、大阪とのアンカー勝負に一步も引かない強気の走りでレースを進め、残り約2kmで先に仕掛けた。だが、最後に離されて2位でフィニッシュ。「レースプランに未熟さが出ました。申し訳ない気持ちでいっぱいです」と涙を流した永長を、主将の田中らが「かっこよかったよ」と出迎えた。

昨年10位から、今回は8年ぶりのメダル。濱本憲秀監督は「郷土愛が育んでくれた駅伝でした。苦戦を予想した区間の選手たちもしっかり粘り、頑張ってくれました」と、全員の健闘をたたえた。「みんなができることをすごく頑張った結果だと思います」と胸を張った田中主将。駅伝王国の総合力を集めたたすきリレーだった。

第44回全国都道府県対抗女子駅伝

兵庫 2位	2時間18分28秒(9区間42.195km)
1区 6.0km	清水里名 (ノーリツ) ⑩19分58秒
2区 4.0km	田中希実 (New Balance) ①12分14秒
3区 3.0km	森貞帆加 (星陵台中2年) ⑩ 9分36秒
4区 4.0km	藤村晶菜 (ノーリツ) ⑤13分43秒
5区 4.1075km	池野絵莉 (須磨学園高3年) ②13分14秒
6区 4.0875km	金子聖奈 (須磨学園高3年) ⑨13分13秒
7区 4.0km	種 知里 (須磨学園高3年) ③12分44秒
8区 3.0km	福井 詩 (安室中3年) ④10分29秒
9区10.0km	永長里緒 (三井住友海上) ⑬33分17秒

※丸中数字は区間順位

粘り強くつないで男子もメダル

「すごいな、ありがとう」。3区の長嶋幸宝がそう言いながら西脇工高時代の同級生で、9区を走った藤田大智に駆け寄った。3位で走り出した藤田は一時、岡山に抜かれたが、箱根駅伝1区区間新(区間2位)の意地を見せて抜き返し、3位でフィニッシュ。「1区から6区までのいい流れを台無しにするわけにはいきませんでした」と、ホッとした表情で話した。

1区を託された新妻遼己は区間記録を7秒更新したが、区間3位で発進。「区間新を出せる設定はクリアできましたが、前の2人には力が及ばませんでした。でも、自分のなかでは合格点をあげられる走りだったかなと思います」と悔しさを飲み込んだ。

2区の佐藤颯流は3位を守り、3区の長嶋は1つ後退したものの、「前を追いやすい位置でつなごう」と踏ん張り、3位に8秒差

で4区の新妻昂己につないだ。先輩の思いを受け取った昂己は「追いついたら追い抜こう」という感じで、力むことなく走れました」と無欲の区間賞。兵庫は



再び3位に浮上した。

5区の藤岡孝太郎、6区の石塚勇輝も単独3位をキープ。アンカーの藤田は6kmすぎに岡山に抜かれたが、残り700m付近で抜き返し、2秒先着した。「もうダメかなと思う場面も何度かあった」と言うが、底力を発揮した。

山口哲監督は「新妻兄弟の走りを他のメンバーが粘ることで生かしてくれました。望まないかたちでたすきをもらっても、次の走者のために少しでもいいかたちで、という思いがすごく伝わる駅伝でした」と総括。優勝争いをした女子チームと同じく、男子チームも見ると人の心を動かす駅伝を見せてくれた。

第31回全国都道府県対抗男子駅伝

兵庫 3位	2時間17分53秒(7区間48.0km)
1区 7.0km	新妻遼己 (西脇工高3年) ③19分24秒 =区間新
2区 3.0km	佐藤颯流 (宝殿中3年) ⑩ 8分46秒
3区 8.5km	長嶋幸宝 (旭化成) ⑨24分19秒
4区 5.0km	新妻昂己 (西脇工高3年) ①14分05秒
5区 8.5km	藤岡孝太郎 (須磨学園高3年) ⑤25分03秒
6区 3.0km	石塚勇輝 (神吉中2年) ⑥ 8分51秒
7区13.0km	藤田大智 (中央大3年) ⑦37分25秒

※丸中数字は区間順位

西脇工高男子 6位

全国高校駅伝
2025年12月21日 8京都市

2時間03分24秒



県大会優勝を喜ぶ西脇工高チーム

1区遼己&3区昂己、新妻兄弟が力走

西脇工高が双子の新妻遼己・昂己（3年）の活躍で6位に入賞した。1区先頭集団前列でスピードに乗った遼己は、中学時代からしのぎを削る増子陽太（学法石川高3年・福島）との勝負を楽しみにしていたが、7km付近で先にスパートした増子にじりじりと離され、区間2位。それでも、従来の日本人区間最高記録を更新する28分40秒をマークした。

2区で3位になり、3区の昂己は5000m13分台の2人と競り合いながら力走し、区間6位。西脇工高は4区以降も踏ん張り、2時間03分24秒でフィニッシュした。

兵庫勢初の2時間02分台には届かなかったが、主将の昂己は「全員で心のたすきリレーができた」と胸を張り、遼己も「自分は県大会より18秒遅いの、チームは県大会より1秒速い。チームメイトが頑張った証拠なので、とても評価できる」と全員駅伝を強調した。



新妻遼己（県大会1区）

遼己と昂己は別々の大学へ進学予定。「これからも刺激し合える仲だと思うし、またどこか同じチームで走っているような気がします」と遼己。「大学は違いますが、いつか一緒にたすきをつなげたら」と昂己。また、遼己は「3年生が抜けても、自分たちは弱いと思うんじゃないくて、向上心を持って競技してほしい」と、新チームにエールを送った。

須磨学園高 男子20位 女子8位入賞

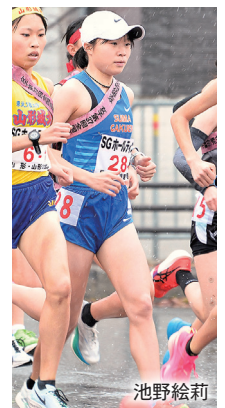
須磨学園高の女子は1区4位から順位を落とす駅伝になったが、入賞圏内で粘り抜き、1時間09分01秒で

8位入賞を果たした。ひと安心の一方、近畿勢7チーム中4番目の順位に悔しさも残った。

前は23位。危機感から出発したチームは練習・生活の根本を意識して取り組んだ。3000mでインターハイ&国スポともに入賞した池野絵莉（3年）に頼り切るのではなく、「他の子も一生懸命もがいてもらって取り組んできました」と濱本憲秀先生は話す。

8位では満足できないが、29回目の出場で26回目の入賞。主将で2区の子聖奈（3年）は「前回連続入賞が途切れてしまい、入賞は簡単ではないけれど、ここからまた伝統を新しくつないでいってほしい」と後輩たちに思いを託した。

近畿代表で出場した須磨学園高の男子は2時間05分24秒で20位。1区29位発進から徐々に順位を上げたが、10位台へ浮上するきっかけをつくれなかった。



池野絵莉



藤岡孝太郎（県大会1区）

全国高校駅伝成績

【男子】 6位 西脇工 2時間03分24秒

- 1区:新妻遼己 ②28分40秒
- 2区:岩崎 奏 ⑦ 8分21秒
- 3区:新妻昂己 ⑥23分55秒
- 4区:佐伯優月 ③24分09秒
- 5区:中道琉惺 ⑩ 8分52秒
- 6区:高林恭大 ⑩14分51秒
- 7区:岸本周真 ⑩14分36秒

20位 須磨学園 2時間05分24秒

- 1区:藤岡孝太郎 ⑨30分09秒
- 2区:足立昌汰 ⑪ 8分23秒
- 3区:森貞翔太 ②24分28秒
- 4区:梅田大陸 ⑦24分07秒
- 5区:上山宙大 ⑪ 8分58秒
- 6区:梅本陸翔 ⑩14分39秒
- 7区:森平悠太 ⑩14分40秒

【女子】 8位 須磨学園 1時間09分01秒

- 1区:池野絵莉 ④19分16秒
- 2区:金子聖奈 ⑦13分30秒
- 3区:池野芹梨 ⑧ 9分58秒
- 4区:伊藤彩由奈 ⑭ 9分39秒
- 5区:西村美羽菜 ⑩16分38秒

※丸中数字は区間順位

日本選手権 ハーフマラソン競歩・U20選抜競歩

【2026年2月15日・六甲アイランド】

U20で山田が2位 世界競歩代表へ



U20男子10km競歩に5000m競歩の高校記録保持者、山田大智（西脇工高3年）が2位に入り、世界競歩チーム選手権（4月／ブラジル）のU20日本代表に選出された。

山田は1月に10km競歩の高校歴代5位となる40分46秒をマーク。今回は高校記録（40分14秒）更新も視野に入れていた。しかし、後列からのスタートで先頭集団前方になかなか出られず、前半からリズムをつくれなかった。「想定外で、難しいレースでした」と言うものの、インターハイ&国スポ王者の意地を見せた。4月からは大学生。「強い先輩たちとの差を埋めていきたい」とさらなる飛躍を誓っていた。

2026年度おもな大会・事業計画

- 4.18～19 兵庫リレーカーニバル
〔併催〕第80回兵庫県民スポーツ大会
- 5.29～31 兵庫県高校対校選手権
- 6.21 兵庫県小学生陸上
- 7.4～5 兵庫陸上競技選手権
- 7.26～27 兵庫県中学総体陸上
- 8月 国スポ強化合宿（鹿児島）
- 9.20 兵庫マスタース陸上
- 9.23 全国小学生交流兵庫大会
- 11.1 兵庫県高校駅伝
- 11.14 兵庫県中学駅伝
- 11.15 神戸マラソン
- 1月 兵庫陸協合宿（鹿児島）
- 2.7 兵庫県都市対抗駅伝
- 3月 審判講習会

※予定は変更になる場合があります。

稲美北中男子6位



全国中学校駅伝大会
2025年12月14日：滋賀県

6区間 18km 58分21秒

男子（6区間18km）の稲美北中と女子（5区間12km）の星陵台中はいずれも初出場。稲美北中が58分21秒で6位入賞を果たし、星陵台中は44分10秒で14位だった。コースの芝がぬかるむ難しいコンディションだったが、選手たちは全国の舞台を全力で駆け抜けた。

総合力でつかんだ全国入賞

稲美北は、3000m 8分54秒台の自己ベストを持つ脇本航太（3年）が、脚を痛めて当日選手交代するアクシデントもあり、思い描いたレースとはならなかった

が、後半区間で追いつけた。

夏の全国中学校体育大会1500mを制したエースの中川悠聖（3年）が、1区でトップと9秒差の6位で発進。3区を終えて16位まで後退したが、4区の藤井陽生（2年）が11位、5区の本澤惺成（2年）が9位まで順位を上げた。アンカーの山田遼翔（3年）は区間2位と力走し、3人を抜いて入賞にたどりついた。

2区を走った橋本宏輝主将（3年）は「1、2区で先頭集団にいる形にならず、苦しい展開になりましたが、アンカーが

いい順位でできると信じていました。目標は優勝だったので悔しさが強いですが、最後までやりきれました」と、仲間とたすきをつないだ思いを語った。

玉田初彦監督は「3番手の脇本君が走っていたら展開が変わっていたかもしれませんが、入賞できたのは7番手、8番手の選手も力があったからだと思います」とチームの総合力を強調した。

女子・星陵台は14位

星陵台は、1500m 4分33秒84の走力がある森貞帆加（2年）が1区10位でスタート。2区以降の選手たちも入賞圏内を目指して懸命に前を追ったが、なかなか浮上できないもどかしい展開に。15番手でたすきを受けたアンカーの平野凜明（3年）が1つ順位を上げてフィニッシュしたが、8位入賞には届かなかった。

全国中学駅伝成績

【男子】 6位 稲美北 58分21秒

- | | |
|---------|----------|
| 1区：中川悠聖 | ⑥ 9分22秒 |
| 2区：橋本宏輝 | ②① 9分46秒 |
| 3区：戸嶋歩聡 | ②② 9分54秒 |
| 4区：藤井陽生 | ⑨ 9分47秒 |
| 5区：本澤惺成 | ⑬ 10分06秒 |
| 6区：山田遼翔 | ② 9分26秒 |

【女子】 14位 星陵台 44分10秒

- | | |
|---------|----------|
| 1区：森貞帆加 | ⑩ 10分33秒 |
| 2区：池内珠優 | ②⑤ 7分26秒 |
| 3区：石田結乃 | ②⑩ 7分29秒 |
| 4区：藤井夢結 | ①⑦ 7分36秒 |
| 5区：平野凜明 | ⑩ 11分06秒 |

※丸中数字は区間順位



男子は島津裕太（NDソフト）が2時間18分28秒で初優勝し、女子は横田歩（三木市陸協）が2時間46分16秒で2年ぶり4度目の頂点に立った。

女子の横田は、大会11日前に他界した父弥吉さんのことを思いながら完走。スタート前に空を見上げ、レース中に苦しくなると「応援してね」と心の中で呼びかけた。「お父さんのために絶対優勝」と



男子1位 島津 女子1位 横田

強い意志で2位に5分以上差をつけ、独走で駆け抜けた。「優勝できて喜んでくれていると思

います」。いつも応援に来てくれていた父へ、走る姿で感謝を届けた。

男子を制した島津は初マラソン。終始冷静にレースを展開し、残り約5kmで先頭に追いつき、最後は2位に23秒差をつけてフィニッシュ。「チームにいい結果を持って帰れます」と気持ちよさそうに汗をぬぐった。3位には兵庫陸協登録の小田俊平（コマネチランニングクラブ）が入り、「声援のおかげで踏ん張れました」とうなずいた。

1～5kmのファンランには4209人が出場。スペシャルゲスの田中希実（New Balance）らと姫路路を駆け抜けた。



男子兵庫登録トップの小田

姫路城マラソン成績

【男子】

- | | |
|------------------|-----------|
| ①島津裕太(NDソフト) | 2時間18分28秒 |
| ②和田壮平(徳島市陸協) | 2時間18分51秒 |
| ③小田俊平(コマネチランニング) | 2時間19分49秒 |

【女子】

- | | |
|---------------|-----------|
| ①横田 歩(三木市陸協) | 2時間46分16秒 |
| ②薄井身之(大阪陸協) | 2時間51分53秒 |
| ③橋本 実(大和走ろう会) | 2時間52分08秒 |

TOPICS

◆エディオンDCin大阪／2025年12月6日

女子1万mに田中希実（New Balance）が出場し、30分54秒40の兵庫新で3位（日本人トップ）に入った。

◆全日本実業団対抗駅伝／2026年1月1日

前回6位の住友電工は7区西川雄一郎が15位でフィニッシュ。チーム過去最速タイムの4時間50分16秒（7区間100km）だった。

◆箱根駅伝／2026年1月2・3日

兵庫出身選手が多数出場し、折田壮太（2年）がアンカーを務めた青山学院大が3連覇を達成。1区21.3kmでは中央大3年の藤田大智が区間2位ながら1時間00分37秒の区間新をマークした。

◆世界クロカン／2026年1月10日、米国・タラハシー U20男子8kmで新妻遼己（西脇工高3年）が日本勢トップの15位に入り、同女子6kmの細見芽生（名城大1年）は26位だった。

◆香川丸亀国際ハーフマラソン／2026年2月1日 箱根駅伝の関東学連選抜7区を走った秋吉拓真（東京大4年、六甲学院高出）が1時間01分01秒の兵庫新で25位。従来の記録を20秒更新した。

◆アジア室内／2026年2月6～8日、中国・天津 田中希実（New Balance）が女子1500m優勝（4分19秒15）、同3000m2位（8分48秒22）で金&銀メダル。女子60mHの中島ひとみ（長谷川体育施設）は8秒15（室内兵庫新）で銅メダルをつかんだ。

◆全日本実業団ハーフマラソン／2026年2月8日 中地こころ（シスメックス）が兵庫新の1時間09分24秒で女子2位に入賞した。清水里名（ノーリツ）は8位に1秒差の1時間11分21秒で9位だった。

◆日本選手権クロカン／2026年2月21日

シニア女子10kmで尾崎光（シスメックス）が6位。U20男子8kmでは新妻遼己（西脇工高3年）が2位、藤岡孝太郎（須磨学園高3年）が5位に入賞した。



男子スタート



女子1区先頭争い



優勝した尼崎市の太田垣

男子 加古川市2連覇 女子 尼崎市初優勝

男子第80回、女子第41回の都市区駅伝は県立三木総合防災公園で行われ、男子は加古川市が2連覇を達成し、女子は尼崎市が初優勝を飾った。

男子（7区間38.8km） 43チームが出場（オープン含む）。1区は三木市の延藤潤（マツダ・三木東高出）が区間賞。高砂市の若林司（仙台育英高3年・宝殿中出）、加古川市の新妻玲瑤（神奈川大3年・西脇工高出）が続いた。2区では加古川市の新妻昂己（西脇工高3年）と追い上げてきた西宮市の前田和摩（東農大3年・報徳高出）が先頭を争い、加古川市が一步リードして3区に中継した。加古川市は3区以降盤石の駅伝を披露。7区の新妻遼己（西脇工高3年）が独走して2年連続9回目の総合優勝を決めた。2位の三田市は過去最高順位。神戸市北区が3位、高砂市が4位と続き、宝塚市も過去最高の5位だった。



加古川市のアンカー新妻遼己



男子の三田市は過去最高2位



前田(右)ら男子2区先頭争い



男子3位北区(5区→6区)

女子（5区間17.0km） 37チームが出場（オープン含む）。姫路市が福永愛佳（ノーリツ）の1区区間賞から先頭を走ったが、尼崎市が中学生区間の3、4区で連続区間賞を奪い、12秒差に迫ってきた。そして最終5区の残り200m付近で、太田垣楓華（園田学園大3年）が姫路市を逆転。尼崎市が初優勝を勝ち取った。姫路市は3年ぶり優勝まであと一步。前回Vの神戸市垂水区は3位。前回28位の神戸市北区の6位入賞も見事だった。

総合成績

【男子】7区間38.8km

- ①加古川市 1時間55分37秒(新妻玲-新妻昂-石塚-長谷川-高林-小林-新妻遼)
- ②三田市 1時間57分24秒(東-久山-福岡樹-福岡雄-宇都宮-森本-森玉)
- ③神戸市北区 1時間57分37秒(藤岡-梅田-石井-梅本-大柿-田中-河内)
- ④高砂市 1時間57分56秒 ⑤宝塚市 1時間58分26秒 ⑥姫路市 1時間58分45秒
- ⑦尼崎市 1時間58分46秒 ⑧西宮市 1時間58分58秒
- ⑨川西市 1時間59分35秒 ⑩神戸市須磨区 1時間59分48秒

【女子】5区間17.0km

- ①尼崎市 56分50秒(杉永-黒木-関口-久能-太田垣)
- ②姫路市 56分53秒(福永-黒田-福井-堤-種)
- ③神戸市垂水区 58分20秒(新-明比-森貞-平野-金子)
- ④加古川市 58分22秒 ⑤神戸市西区 58分25秒 ⑥神戸市北区 58分48秒
- ⑦豊岡市 59分03秒 ⑧西宮市 59分33秒 ⑨神戸市須磨区 59分50秒
- ⑩加古郡 59分57秒

※男女各10位までが次年度「第1部」

Zoom Upチーム 03 ノーリツ



目標にチャレンジして、活躍を届けたい

ノーリツ女子陸上競技部公式サイト



全国男子・女子駅伝入賞を県知事に報告

2026年1月に行われた全国都道府県対抗駅伝で女子2位、男子3位に入った兵庫チームが2月3日、県庁で齋藤元彦知事にメダル獲得を報告した(写真)。榎本隆夫総監督は「昨秋の国スポで総合優勝し、駅伝でも好成績を残すことができました」とあいさつ。齋藤知事は「県民に勇気と感動を与えてくれ、感謝しています。陸上大県・兵庫を皆さんが示してくれました」と称賛した。選手を代表して、女子の池野絵莉(須磨学園高3年)は「兵庫からの応援のおかげで2位(男子は3位)になりました」と感謝し、齋藤知事に「来年こそは優勝できるよう頑張りたい」と決意を伝えた。



1992年4月、神戸市で創部。1998年の全日本実業団女子駅伝(現愛称:クイーンズ駅伝)で8位に入った。2001年には日本選手権5000m&1万m二冠の岡本治子と同1万m2位の小崎まりが世界選手権(エドモントン)で力走。小崎はマラソンでも05年ヘルシンキ、07年大阪の世界選手権に出場した。現在はヘッドコーチを務めている。

8年ぶり20回目の出場となった2025年のクイーンズ駅伝は1区の小林朝が9位で発進したが、結果は21位。それでも小崎ヘッドコーチは「復活の兆しが見えてきました」と手ごたえをつかみ、「それがしっかりと定着する一年

にしたい」と2026年の抱負を掲げた。

昨季は日吉鈴菜が日本選手権3000m SCで8位入賞し、清水里名が5000mと1万mで2026年日本選手権標準を突破。他のメンバーにも自己新記録が相次いだ。「清水(赤穂高→兵庫大)のように学生時代は全国で無名でも、あきらめずに練習を継続すれば、全国レベルの大会で走る夢を叶えられるチームでありたい」と小崎ヘッドコーチ。1月の全国女子駅伝には2選手が兵庫代表で走った。交通安全イベントなど地域活動にも積極的に参加する。応援してくれる人たちに、期待に応じて活躍する姿を届けたい。

